

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自然に恵まれた教育環境のもと、確かな学力、豊かな心、社会性を身につけた生徒を育成するために、組織的な取り組みを行い、生徒の夢と志を実現できる、地域に信頼され誇りとされる学校をめざす！
1 生徒の一人ひとりに確かな学力と豊かな心、社会性を育成する。
2 生徒の多様な可能性・ニーズに応える教育課程を編成するとともに、音楽専門コース等を充実し進路を実現する。
3 きめ細かな指導により生徒一人ひとりの良さを引き出し、生命と人権を尊重した教育活動を展開する。
4 地域環境を活かし、保護者・地域と共に歩み、組織的な教育活動を行う開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 確かな学力と社会性の育成 (1) 生活習慣・学習習慣の形成の徹底をはかる。 ア 遅刻指導、頭髮・服装指導、授業規律指導等に関して組織的に取り組み、きめこまかな指導を行う。 ※一人あたりの遅刻回数を毎年2～3％ずつ削減し、平成26年度には平成23年度比で10％減にする。 (2) 「わかる授業、充実した授業」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。 ア 各教科における授業研究を推進し、授業改善に取り組む。 ※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を毎年1％ずつ引き上げ、平成26年度には全学年・全科目で70％以上にする。 (3) 学校行事や部活動とおして生徒の自主性・社会性を育成する。 ア 体育祭・文化祭などの学校行事に工夫を凝らし、生徒の自主的かつ積極的な参加を促す。 イ 新入生の部活動への勧誘を工夫し体験入部期間などを設けることにより、部活動への積極的な参加を促す。 ※生徒の学校行事への満足度を常に65％以上とする。 ※新入生の部活動入部率を毎年40％以上とし、平成26年度には50％以上とする。
2 夢と志を持つ生徒の育成をめざし学校の特色づくりを推進 (1) 音楽専門コースの充実を計画的に行う。 ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用を図り、より専門的な知識・技能の習得を図る。 ※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を音楽専門コースを含め、全科目で80％を越えるようにする。 (2) 「夢チャレンジ！」を合言葉に、卒業時の進路未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導を行う。 ア 進路指導ノート等の活用を図り1年時より3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施する。 イ キャリアカウンセリング体制を充実し、一人ひとりの生徒が抱える進路の問題を解決できる組織的指導体制を作る。 ※卒業時の進路未定者を毎年減少させ（平成22年度2.2％）平成26年度には1％とする。また毎年就職内定率95％以上を維持する。 (3) 中期計画推進費によって整備された視聴覚教室の活用を図る。 ア 音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。 イ キャリア教育をはじめ、学年、クラス、グループでの活動の場として活用し、生徒の自己実現をめざす活動の場として利用する。 ※年間を通しての視聴覚教室の利用率を高める。活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証する。
3 生徒理解の促進と教育相談体制の充実 (1) 多様な生徒の生活、生育、心の発達に伴う不安や悩み等を把握し適切に指導する。 ア スクールカウンセラーの活用や外部の諸機関とも連携し、教育相談機能の一層の充実を図る。 ※事例ごとに必要な対応ができているかの検証を行う。
4 地域連携、校種間連携を強化し、開かれた学校づくりを推進 (1) 地域や地域の学校、施設との連携活動を促進し、地域への貢献度を高める。 ア 既存の連携活動をさらに充実させるとともに、地域との連携活動の拡大を図る。 イ 生徒・保護者への周知を図り、より多くの生徒の自主的参加を募る。 ※活動参加者を毎年2～3％ずつ増加させる。平成26年度以降常に延べ100人以上の参加を確保する。 (2) 学校の取り組みを積極的に発信し、学校理解を促進する。 ア ホームページの充実や中学校訪問、学校説明会などの広報活動を強化する。 ※ホームページの全面改訂を行い、その後更新作業を每学期3回以上行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成25年12月実施分〕	学校協議会からの意見
【学校生活】 ・「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が、全学年とも増加し、全体で昨年の60.3％から73.5％と10％以上の大幅な増加となった。これは、本校が本年度創立30周年を迎え様々な行事に積極的に取り組んだ結果の表れであると考えられる。 ・「自分の学級は楽しい」と答えた生徒については、昨年の63.3％から72.5％とこれも9.2％余りの大幅増となっている。学校行事やHR活動とおして「仲間づくり」がうまくいっている結果といえる。 ・「部活動に積極的に参加している」と答えた生徒の割合が全体で昨年の46.2％から54.9％と大幅に増加した。全学年とも増えているが特に2年生で13.8％と大きく増えており、充実した活動が行えているといえる。 【学習指導等】 ・「授業が分かりやすく楽しい」と答えた生徒が、昨年の41.3％から53.7％と大幅に増えており、さらに授業改善が進んだといえる。特に1年生では53.6％であるが、保護者の「子どもが、授業が楽しく分かりやすいと言っている」では、1年生が一番高く64.7％も占めており、中学校の時に比べると授業で丁寧な指導が行き届いている成果が表れている。 ・先生の教え方の工夫については、教員は93.1％が工夫していると答えているが、生徒は41.2％とまだまだ工夫が足りないと感じており、さらなる改善が必要である。	第1回学校協議会（6／24）[本年度の学校経営計画と取り組み] ○授業について ・一生懸命やっている生徒と真剣に取り組まない生徒と2極化している。全生徒が参加できるように、何らかの手立てを講じる必要がある。 ○社会性の育成について ・すでに基本的な生活習慣について指導しているが、さらに生徒の社会性を育成していく必要がある。 ○高校入学について ・高校に入学する意思がない生徒が入学してきていることが問題である。 ・公立よりも私学という流れがある。もっと学校の良さをアピールしていく必要がある。 ○生徒の家庭環境について ・アルバイトをしないと生活ができない生徒が増えている。そのため、学校での学習意欲がそがれている。 ・今や家庭の問題は、大きな社会的な問題となっている。 ○生徒の進路について ・全員が大学へ進学する必要はない。就職もしっかり保障していくことが大切である。 ○日本の学校教育について ・学力差が大きいという根本的問題がある。日本の教育レベルを高めるための今後の対策を講じていかなければならない。 ・今の子供たちが、もっと競争できる教育環境が必要である。 第2回学校協議会（11／27）[本年度の取り組みに対する進捗状況の検証] ○確かな学力と社会性の育成 ・一人あたりの遅刻回数も減少しており、指導がうまくいっている。 ・授業にも集中して取り組んでいる様子がうかがえる。

【生徒指導等】 ・生徒の「先生が意見を聞いてくれる」では、昨年の 54.6%から 61.1%と、また「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」では、同じく 50.1%から 58.3%と増えており、教育相談体制や生徒に寄り添った生徒指導がより一層充実した結果と考えられる。 ・生徒の「先生は協力して生徒指導に当たっている」も昨年の 58.6%から 63.0%と、「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」は、同じく 49.0%から 59.9%と肯定的な回答が増えており生徒との信頼関係や対応がスムーズになったことが伺える。 【進路指導】 ・生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」は、全体で昨年の 63.2%から 71.4%に、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」は 65.7%から 74.3%と増えた。今年度取り組んだキャリア教育が充実したことが伺える。 【学校経営】 ・保護者の学校に対する肯定的な評価は総じて高いが、ほとんどの項目で在籍人数が少ない 2 年生で最も高くなっており、きめ細かな指導が効果を上げているといえる。 ・保護者の肯定的な意見が 75%を超えた項目は「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「保護者の相談に適切に応じてくれる」「生徒指導の方針に共感できる」「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」などがあり、概ね学校の経営に肯定的であることが伺える。	・バス指導はよくなっている。 ・部活動入部者はほぼ横ばい。今後も勧誘の努力をする。 ○学校の特色づくりを推進 ・音楽大学ともっと密接な関係を構築していく必要がある。出張授業などをもっと活用してはどうか。 ・製造業を中心に求人が増えてきており、現段階で昨年を上回る就職内定率である。 ・就職面接で話ができない生徒がいるので、日ごろから訓練することが必要である。 ・支援を要する生徒の作業訓練などに取り組んでいくことが必要である。 ・支援を要する生徒の就職が難しいが、作業訓練所の活用も考えてはどうか。 ○開かれた学校づくりを推進 ・地元校育成の流れが薄れてきている。 ・音楽大学との連携などについて、もっと塾や学校説明会などでアピールしていく。 ・ホームページの活用を進める。 第 3 回学校協議会（2 / 2 4） ○確かな学力と社会性の育成 ・部活動を活発にしたいが家庭の経済状況や生活が改善しないと難しい現実がある。 ・教育では人権の視点を確認しあうことが大切である。 ・キャリア教育や人権活動、文化的行事等 dengan いい人間関係を築いていく。 ・教育にはバランス感覚が必要である。 ○学校の特色づくり ・有名大学への進学率だけを競うのではなく、キャリア教育を推進する。 ・就職も大切である。 ・大阪音楽大学と授業での連携をさらに促進していく。 ・芸術の持つ力を教育活動に生かしていく。 ○開かれた学校づくり ・中学生への体験レッスンやオープンキャンパス、出前授業などが効果的である。 ・芸術、音楽で人の心を変えていき、必要とされるようになれば入学者も増える。 ・地域に根ざした学校として、生徒たちがもっと自発的に挨拶ができるようになればよい。 ○その他 ・教育は人との競争ではない。一人ひとりが育っていくことが大切である。 ・卒業式では一人ひとりの思いを大切にしてほしい。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と社会性の育成	（１）生活習慣・学習習慣の形成 ア 遅刻指導・授業規律に関しての組織的な取り組み （２）「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善 イ 教科等による授業研究・授業改善 （３）学校行事や部活動の充実 ウ 体育祭・文化祭などの学校行事の工夫 エ 新入生の部活動への勧誘強化	（１） ア・従来の遅刻指導も強化しながら、考査前の遅刻指導強化週間での指導やカウントダウンシステムを活用した指導も徹底し、相乗的効果をねらう。さらに効果の上がるようにシステムの改善を図る。 ・授業に入る際の準備等の指導を徹底する。 （２） イ・年２回の公開授業週間を利用して教科で授業研究を行う。 ・年２回の生徒による授業アンケートを行い、授業の状況、生徒の反応等を分析・把握し、それをもとに各教員が授業の改善を検討し、実施する。 ・外部研修の伝達研修を行い研修の充実を図る。 （３） ウ・生徒状況の変化に対応した行事の内容や実施方法の検討を行う。 エ・新入生に対する全員参加の体験入部のさらなる工夫や再入部への勧誘をすすめ、新入生の入部率を高める。	（１） ア・年間遅刻回数を前年比２％削減(H24 12.6回/人) （２） イ・生徒による授業評価での「授業への積極的な取り組み」の肯定意見を全体で８０％以上。 （３） ウ・文化祭・体育祭・修学旅行が「楽しかった」を２％増（平成24年度、47.4％、57.1％、66.5％） エ・新入生の部活動入部率を５０％以上（平成24年度45.5％）	(1) ア・1人当たりの回数は全体で－20.7％と大きく減少し、１年生は10％、２年生は67.6％、３年生は12.1％の減少となっている（◎） (2) イ・アンケートでは、１年 78.9％、２年 78.5％、３年 81.2％、全体では 79.4％で、３年生のみ 80％を超えた（○） ※昨年度とアンケート方法に変更あり (3) ウ・文化祭は63.3％、体育祭は今年は特に競技や応援合戦などが充実していて70.7％と満足度は高かった。修学旅行も内容の工夫もあり78.1％とかなり満足度が上がった（◎） エ. 男子は55.4％、女子は45.2％で、全体では50.1％と若干ではあるが50％を上回った（◎）
2 学校の特色づくりを推進	（１）音楽専門コースの充実 ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用促進 イ 音楽専門コース発表や活動の場を確保 （２）未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導 ウ ３年間を見通したキャリア教育の計画的実施 エ キャリアカウンセリング体制の充実 オ インターンシップへの参加者増加 （３）中期計画推進費による視聴覚教室の活用 カ 音楽専門コースの活性化やキャリア教育の場として活用促進	（１） ア・専門コースにおける専門性を高めるために、大阪音楽大学を中心に連携を強化し、外部講師の活用を図る。 イ・音楽専門コースの発表会をはじめ、部活動とも連携して多くの発表の場を確保することにより、生徒の優れた能力の開発の場とする。 （２） ウ・３年間の進路指導計画に沿って、キャリア教育支援事業を活用し、進路指導ノート、職業体験、体験談講演会、模擬授業などをとおして、望ましい職業観・勤労観を養う。 エ・就職希望者に対して、キャリアカウンセラーなどの専門家による就職指導や外部講師による面接指導をとおして企業が求める人材について理解させ、社会人としての自覚を持たせる。 オ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるインターンシップへの参加を勧める。 （３） カ・音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。 ・学年、クラス、グループでの活動の場として生徒のキャリア教育に役立てる。 ・学校説明会などの広報活動、地域との連携活動などにも広く活用する。	（１） ア・講師による講座に関するアンケートでの満足度 90％以上 イ・発表会について生徒アンケートでの満足度 90％以上 （２） ウ・卒業時の進路未定者を 10人以下 エ・就職内定率 95％以上 ・キャリアカウンセラーや外部講師の活用回数、活用状況 オ・インターンシップへの参加率 5％増（平成24年度21人） カ・年間の利用率と活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証	(1) ア・今年も文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を活用しての「サキソフォン」の公開講座を2回実施、さらに1学期にピアノ、3学期に箏楽の公開講座を実施した。いずれもレベルの高い講座で生徒の満足度はほぼ100％であった（◎） イ・音楽専門コースの発表会も昨年よりレベルが上がり、生徒の満足度はほぼ100％であった（◎） ・創立記念式典での芸術発表会では、学校協議委員会をはじめ多くの来賓の方にお越しいただいて、いづれの方からもそのレベルの高さや発表の態度について、最大限の賛辞をいただいた（◎） (2) ウ・進路未定者は、2名である（◎） エ・就職内定率は、37名全員が決定し内定率100％を達成した。府の「実践的キャリア教育・職業教育推進事業」を活用し、キャリアカウンセーおよびキャリアコーディネーターの2名を配置し、さらに外部講師による指導を昨年以上に増やした（◎） オ・インターンシップ参加者は26人となり、24％余りの増加となった（◎） (3) カ・通常の授業や部活動の他、学年 HR 等（キャリア教育など） 11回、音楽専門コースの公開講座4回、進路説明会6回、地域連携のフレンドリーコンサートの練習会場7回、学校説明会会場3回として活用した（◎）
3 開かれた学校づくりを推進	（１）地域との連携活動を促進 ア 既存の連携活動のさらに充実と拡大 イ より多くの生徒の自主的参加拡大 （２）情報発信 ウ 中学校訪問や学校説明会などの広報活動の充実	（１） ア・地域の幼・保・小・中をはじめ地域コミュニティや福祉施設などとの交流活動を推進し、生徒の学びの場とするとともに、地域貢献をとおして本校への学校理解を促進する。 イ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるボランティア活動への参加を勧める。 （２） ウ・中学校へ訪問しての学校案内を充実させるなど、直接中学生への説明機会を増やす。また、学校説明会の時期・内容を検討して、参加者の拡大を図り、入学生確保に努める。	（１） ア・既存の活動内容の充実と連携活動の新規開拓 イ・ボランティア参加者 延べ80人以上 （２） ウ・学校説明会への参加者（平成24年度116人）を 130人以上	(1) ア・乳児・幼児との「のびのびひろば」年3回、小学校「車いす体験」、小・中・高・一般との「フレンドリーコンサート」、高齢者や障がい者との交流活動、高齢者施設への訪問など新たな施設への開拓を含めて回数も増えた（◎） イ・吹奏楽部、弦楽部、ダンス部、テニス部、生徒会やその他の生徒もボランティアに積極的に参加したが、一部台風で行事が中止となったり、本校の記念式典と重なったりして参加者はほぼ例年並みとなった（○） (2) ウ・池田市民文化会館での音楽専門コース説明会は26名と10名余り昨年より参加者が増加したのをはじめ、学校説明会全体で210名余りと目標を大きく上回った。中学校への出前授業など講師派遣事業を新たに創設した。本校の取組みが日経新聞と毎日新聞の記事として大きく取り上げられた（◎）